

令和 6 年 5 月 25 日現在

機関番号：32638

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2019～2023

課題番号：19H01449

研究課題名(和文) ビジュアル・イメージの政治的影響に関する実証研究

研究課題名(英文) The effects of visual image on political behavior

研究代表者

浅野 正彦 (Asano, Masahiko)

拓殖大学・政経学部・教授

研究者番号：40376629

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,100,000円

研究成果の概要(和文)：オンラインによるサーベイ実験では、被験者は美顔の候補者に関する情報ほど良く記憶していることが明らかになった。また、有権者は美顔の候補者の主要な政策をよりよく覚えている傾向が見られた。この実験結果は2023年9月にロサンゼルスで開催されたアメリカ政治学会(APSA)で発表した。脳画像解析班は被験者に対して、客観的な事実をフィードバックする顔と、ポジティブなフィードバックを返す顔では、報酬系は前者に強く反応するという結果が得られた。5年間で計44件の雑誌論文(うち査読付きが20件)が採択され、政治学や心理学そして医学の各分野において評価の高い海外のジャーナルで論文が掲載された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来の投票行動研究では、政治家の掲げる公約や政策の内容が重要であるとされてきたが、実際の有権者の投票行動は、政治家の顔や表情などの政治とは関連が薄いビジュアル・イメージから影響を受けている可能性が考えられる。本研究では、まず観察研究を通じて、有権者が候補者の顔というビジュアル・イメージから有能さや誠実さといった能力を推定しているのかを明らかにし、その評価が候補者の得票率とどの程度関連しているのかを探る。政治家のビジュアル・イメージが有権者の評価に及ぼす影響メカニズムを解明することで、有権者の政治的判断に伴う合理性に関する新たな理論を提示することを目指す。

研究成果の概要(英文)：An online survey experiment revealed that subjects remember information about attractive candidates better. Additionally, voters tend to better recall the main policies of attractive candidates. These experimental results were presented at the American Political Science Association (APSA) meeting held in Los Angeles in September 2023. The brain imaging analysis team found that subjects' reward systems responded more strongly to faces providing objective factual feedback compared to faces giving positive feedback. Over the past five years, a total of 44 journal papers (including 20 peer-reviewed) have been published in highly regarded international journals in the fields of political science, psychology, and medicine.

研究分野：政治学

キーワード：サーベイ実験 選挙公報 選挙ポスター 候補者の笑顔度 候補者の美顔度 候補者の顔評価 候補者の美顔度と政策

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1 . 研究開始当初の背景

従来の投票行動研究では、政治家の掲げる公約や政策の内容が重要であるとされてきたが、実際の有権者の投票行動は、政治家の顔や表情などの政治とは関連が薄いビジュアル・イメージから影響を受けている可能性が考えられる。本研究では、従来、投票行動研究ではトリビアだと扱われてきた政治家の「みかけ」に注目して分析を進める。

2 . 研究の目的

本研究では、まず観察研究を通じて、有権者が候補者の顔というビジュアル・イメージから有能さや誠実さといった能力を推定しているのかを明らかにし、その評価が候補者の得票率とどの程度関連しているのかを明らかにする。次に、候補者の顔や表情を操作するサーベイ実験および実験室実験を行うことで、候補者の顔年齢や表情といったビジュアル・イメージが、能力の推定や投票意図に及ぼす因果関係を厳密に推定する。最後に fMRI 装置を用いた脳画像解析を通じて、政治家のビジュアル・イメージが有権者の評価に及ぼす影響メカニズムを解明することで、有権者の政治的判断に伴う合理性に関する新たな理論を提示することを目指す。

3 . 研究の方法

本研究は、観察研究班(浅野、河村、矢内)、サーベイ実験班(尾野、福元、浅野)、実験室実験班(齋藤、横山、河村)及び脳画像解析班(杉浦、尾野、横山)で分担して研究を行った。

観察研究班は、候補者の笑顔度と得票の「相関関係」を明らかにするための観察研究に必要な資料収集として、当初の計画通り選挙公報(1980年～2021年までの総選挙分)を購入しデータ化し、分析することができた。

サーベイ実験班は2020年3月にオンラインによるサーベイを実施し、参院選挙における男性候補者の顔写真を使用して、候補者の顔が得票に与える影響とその要因などに関する実験を行った。笑顔度の得票に対する影響を確認するため、被験者が実験素材(顔写真)に対し先入観を持っていないことが必要である。そのため、実際の政治家の写真ではなく、商材として販売されている加工可能な写真を購入し、写真を加工して実験を実施した。2021年3月には、候補者の笑顔度と美顔度と得票の「因果関係」を明らかにするための実験を行った。2022年には顔写真評価のためのサーベイを実施した。まず、候補者の顔と得票に関するパイロットテスト実験を1000人程度に対し実施し、その後、実験の内容や計画を必要に応じて修正したうえで、顔写真評価のためのサーベイを3000人程度に対し実施した。実験結果は研究分担者と共有し、今後の研究を進めるために意見を交換した。この実験では、以前実施した494人の参院候補者を対象として測定した美顔度の結果を使って、被験者に対して美顔度が異なる二人の候補者の写

真と最終学歴と主張する主要な政策を掲示し、どちらの候補者のことをより良く記憶しているかを問うた。

脳画像解析班は顔などのビジュアルイメージが人物評価や意思決定に影響する脳内プロセスについて明らかにするために、独自に開発した認知課題と、機能的MRIを用いた脳活動計測実験を行ってきた。脳科学の研究成果を政治学に結びつける研究はまだ緒に着いたばかりではあるが、人物選択という観点からの学際的アプローチを試みている。

実験室実験班は、2020年初頭から始まった地球規模でのコロナウイルス蔓延の影響を受け、当初予定していた研究計画が大きく変更を余儀なくされた。そのため、実験室実験班は必要に応じて観察研究班とサーベイ実験班に合流し、情報交換や意見交換を行った。

4. 研究成果

2020年3月に実施した参院選挙における男性候補者の顔写真を使用したオンラインによるサーベイ実験では、候補者の顔が得票に影響を与えているという当初の想定通りの結果が得られた。494人の参院候補者を対象とした美顔度のサーベイ実験結果を使って、被験者に対して美顔度が異なる二人の候補者の写真と最終学歴と主要な政策を掲示し、どちらの候補者のことをより良く記憶しているかを問うた結果、候補者の美顔度が同程度の場合と比較すると、被験者は美顔の候補者に関する情報ほど良く記憶していることが明らかになった。

最終年度には、参院選立候補者の顔写真などを使った実験を実施し、その結果を分析した。その際、左右に並べて示した候補者の顔写真の下に候補者の職歴、最終学歴、そして候補者の主要な政策の三つの情報を付し、これら三つの情報を被験者がどの程度覚えているかを調べた。被験者に示す二枚の写真は「美顔度」上位同士、上位と下位、下位と下位、下位同士の4パターンをランダムに表示させることで、候補者の「美顔度」と有権者の候補者に関する記憶の関係を調べた。その結果、有権者は「美顔度」が高い候補者の主要な政策をよりよく覚えている傾向が見られた。この実験結果を2023年9月に口サンゼルスで開催されたアメリカ政治学会 (APSA) で発表した。

脳画像解析班は被験者に対して、客観的な事実をフィードバックする顔と、事実と反したポジティブなフィードバックを返す顔では、報酬系は前者に強く反応する一方、称賛要求特性の高い人は客観的な事実の入力処理を忌避するという結果が得られ「法学・政治学 × 脳科学」の研究会にて「fMRI 研究の基礎と人物選択の fMRI 研究」と題する報告を行った。

研究助成を受けた5年間で計44件の雑誌論文(うち査読付きが20件)が採択された。これらの中には、American Journal of Political Science, Political Science Research and Methods, Research & Politics, Political Behavior,

Journal of Public Policy, Frontiers in Psychology, International Migration, Journal of Applied Social Psychology, Frontier in Human Neuroscience など、政治学や心理学そして医学の各分野において評価の高い海外のジャーナルが含まれている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計25件（うち査読付論文 16件 / うち国際共著 4件 / うちオープンアクセス 11件）

1. 著者名 Akira Igarashi and Yoshikuni Ono	4. 巻 60
2. 論文標題 The Effects of Negative and Positive Information on Attitudes toward Immigration.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International Migration	6. 最初と最後の頁 137-149
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/imig.12916	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Akira Igarashi and Yoshikuni Ono	4. 巻 52
2. 論文標題 Neoliberal Ideology and Negative Attitudes toward Immigrants: Evidence from a Survey and Survey Experiment in Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Applied Social Psychology	6. 最初と最後の頁 1146-1157
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/jasp.12916	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Dwi Krisnanto, Endra Iraman, Yoshikuni Ono, and Makoto Kakinaka.	4. 巻 30
2. 論文標題 Quality of Public Governance and Voluntary Tax Payment: Experimental Evidence from Indonesia	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Applied Economics Letters,	6. 最初と最後の頁 543-547
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/13504851.2021.1998317	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 尾野嘉邦	4. 巻 136
2. 論文標題 有権者の理由、候補者の事情をデータで見る なぜ日本は女性議員が少ないのか	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中央公論	6. 最初と最後の頁 110-117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yoshikuni Ono, Michael A. Zilis	4. 巻 66
2. 論文標題 Ascriptive Characteristics and Perceptions of Impropriety in the Rule of Law: Race, Gender, and Public Assessments of Whether Judges Can Be Impartial	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 American Journal of Political Science	6. 最初と最後の頁 43-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ajps.12599	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Endra Iraman, Yoshikuni Ono and Makoto Kakinaka	4. 巻 42
2. 論文標題 Tax compliance and social desirability bias of taxpayers: experimental evidence from Indonesia	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Public Policy	6. 最初と最後の頁 92-109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/S0143814X21000040	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Shushi Namba, Wataru Sato, Koyo Nakamura, Katsumi Watanabe	4. 巻 17
2. 論文標題 Computational process of sharing emotion: An authentic information perspective	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychology	6. 最初と最後の頁 13:849499
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsyg.2022.849499	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shushi Namba, Koyo Nakamura, Katsumi Watanabe	4. 巻 17
2. 論文標題 The spatio-temporal features of perceived-as-genuine and deliberate expressions	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 PLoS ONE	6. 最初と最後の頁 e0271047
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0271047	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中村航洋・川口ゆり	4. 巻 6
2. 論文標題 顔貌に基づく特性推論の進化と起源:ヒトとヒト以外の霊長類の実証研究から考える顔の役割	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 心理学評論	6. 最初と最後の頁 247-266
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河村和徳, 伊藤裕顕	4. 巻 9
2. 論文標題 被災地選挙の諸相 (88) 民主党から自民党へ 2022年参院選宮城県選挙区の候補者選考の事例を考える	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 月刊選挙	6. 最初と最後の頁 17-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河村和徳, 伊藤裕顕	4. 巻 6
2. 論文標題 被災地選挙の諸相 (85) なぜ2022年石巻市議選の候補者数は多かったのか	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 月刊選挙	6. 最初と最後の頁 9-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河村和徳	4. 巻 9
2. 論文標題 地方議員のための選挙トリビア第5講 議員定数削減となり手不足の微妙な関係	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 地方議会人	6. 最初と最後の頁 40-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shotaro Fujiwara, Ryo Ishibashi, Azumi Tanabe-Ishibashi, Ryuta Kawashima, Motoaki Sugiura	4. 巻 17
2. 論文標題 Sincere praise and flattery: reward value and association with the praise-seeking trait.	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Frontier in Human Neuroscience	6. 最初と最後の頁 985047
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fnhum.2023.985047	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Masashi Komori, Keito Shiroshita, Masataka Nakagami, Koyo Nakamura, Maiko Kobayashi, Katsumi Watanabe	4. 巻 12883
2. 論文標題 Investigation of facial preference using gaussian processing preference learning and generative image model	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Computer Information Systems and Industrial Management (CISIM 2021)	6. 最初と最後の頁 193-202
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-3-030-84340-3_15	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Keito Shiroshita, Masashi Komori, Koyo Nakamura, Maiko Kobayashi, Katsumi Watanabe	4. 巻 なし
2. 論文標題 Application of gaussian process preference learning for visualizing facial features related to personality traits	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 2021 IEEE Asia-Pacific Conference on Computer Science and Data Engineering (CSDE)	6. 最初と最後の頁 1 - 4 - 15 - 1 1 0 26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1109/CSDE53843.2021.9718431	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中村航洋	4. 巻 21
2. 論文標題 [特別招待論文] ニューノーマルの時代を前に、もう一度「顔」と向き合う	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本顔学会誌	6. 最初と最後の頁 112-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ono Yoshikuni, Yamada Masahiro	4. 巻 8
2. 論文標題 Do voters prefer gender stereotypic candidates? evidence from a conjoint survey experiment in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Political Science Research and Methods	6. 最初と最後の頁 477 ~ 492
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/psrm.2018.41	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中村 航洋	4. 巻 6
2. 論文標題 心理学における顔印象研究の動向と展望	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 エモーション・スタディーズ	6. 最初と最後の頁 20 ~ 27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20797/ems.6.1_20	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nakamura Koyo, Watanabe Katsumi	4. 巻 10
2. 論文標題 A new data-driven mathematical model dissociates attractiveness from sexual dimorphism of human faces	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 2020
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-020-73472-8	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nakamura Koyo, Ohta Anri, Uesaki Shoko, Maeda Mariko, Kawabata Hideaki	4. 巻 6
2. 論文標題 Geometric morphometric analysis of Japanese female facial shape in relation to psychological impression space	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Heliyon	6. 最初と最後の頁 e05148 ~ e05148
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.heliyon.2020.e05148	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 横山智哉	4. 巻 95
2. 論文標題 メディア研究とサーベイ実験	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 マス・コミュニケーション研究	6. 最初と最後の頁 41-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24460/mscom.95.0_41	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 横山智哉	4. 巻 34
2. 論文標題 トピックモデルを用いた政治的会話の構造の推定	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 理論と方法	6. 最初と最後の頁 18-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tomoya Yokoyama & Tetsuro Kobayashi	4. 巻 20
2. 論文標題 Pitting Prime Minister Cues against Party Cues in a Multiparty System: A Survey Experiment in Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Japanese Journal of Political Science	6. 最初と最後の頁 93-106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/S1468109919000021	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 河村和徳	4. 巻 35(1)
2. 論文標題 2016年参院選福島県選挙区における復興政策評価と投票行動	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 選挙研究	6. 最初と最後の頁 35-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 河村和徳	4. 巻 (865)
2. 論文標題 地方議員のなり手不足と地方議会改革	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 月刊地方自治	6. 最初と最後の頁 2-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計37件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 10件)

1. 発表者名 Yoshikuni Ono, Yuko Kasuya, and Hirofumi Miwa
2. 発表標題 Why Are There More Women in the Upper House?
3. 学会等名 2022 Midwest Political Science Association Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 尾野嘉邦、粕谷祐子、三輪洋文
2. 発表標題 Why are there more women in the upper house?
3. 学会等名 日本政治学会総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yoshikuni Ono, Tiffany Barnes, Charles Crabtree, and Akitaka Matsuo
2. 発表標題 Women Use More Positive Language than Men
3. 学会等名 2023 Society for Affective Science Preconference (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 中村航洋、浅野正彦、渡邊克巳、尾野嘉邦
2. 発表標題 [優秀発表賞受賞講演] 逆相関法による政治家の顔ステレオタイプの可視化
3. 学会等名 日本認知心理学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 白井理沙子、中村航洋、渡邊克巳
2. 発表標題 行為の道徳性に対する顔ステレオタイプと人相学的信念の影響
3. 学会等名 日本認知心理学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Koyo Nakamura, Christina Krumholz, Patric Smela, Cliodhna Quigley, Helmut Leder
2. 発表標題 Modeling private and shared tastes in facial preference judgements
3. 学会等名 European Conference on Visual Perception (ECPV) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kazunori Kawamura, Yuya Endo
2. 発表標題 Thick Glass Ceiling: From Pulic Opinion and Local Councilor Surveys in Japan
3. 学会等名 2022 Korean Association for Public Administration Winter Meeting (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 横山智哉
2. 発表標題 ワクチン接種と党派性: ワクチン接種の意思決定に関するメカニズムの実験的解明
3. 学会等名 日本政治学会総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 横山智哉
2. 発表標題 党派性およびイデオロギーとワクチン接種: サーベイ実験を用いたメカニズムの解明
3. 学会等名 日本大学法学部 政経研究所共同研究研究会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 遠藤勇哉・Charles Crabtree・尾野嘉邦
2. 発表標題 男性の、男性による、男性のための政治? - Fragile Masculinityと有権者の投票行動 -
3. 学会等名 日本選挙学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 遠藤勇哉・尾野嘉邦
2. 発表標題 女性候補者のキャリアパスと有権者の政治行動
3. 学会等名 日本政治学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Charles McClean & Yoshikuni Ono
2. 発表標題 How do voters evaluate the age of politicians?
3. 学会等名 Midwest Political Science Association Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Charles McClean & Yoshikuni Ono
2. 発表標題 How do voters evaluate the age of politicians?
3. 学会等名 ECPR General Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Koyo Nakamura, Katsumi Watanabe
2. 発表標題 Are facial impressions in the eyes of beholder?: The relative contributions of face- and perceiver-variance in perception of trait impressions from faces.
3. 学会等名 European Conference on Visual Perception (ECPV) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Koyo Nakamura, Christina Krumholz, Patrick Smela, Clíodhna Quigley, Helmut Leder
2. 発表標題 A data-driven computational approach to universality and diversity in biological beauty perception
3. 学会等名 Conference of the International Association of Empirical Aesthetics (IAEA) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Tomoya Yokoyama
2. 発表標題 Pretreatment Effects of Political Conversation on the Political Discussion in Mini-Publics
3. 学会等名 2021 International Political Science Association Congress
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 河村和徳, 遠藤勇哉
2. 発表標題 有権者意識にみる地方議員のステレオタイプ：地方議員のなり手不足問題を意識して
3. 学会等名 日本政治学会研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 河村和徳
2. 発表標題 有権者からみたジェンダーに関する地方議員イメージ
3. 学会等名 日本選挙学会総会研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Tomoya Yokoyama
2. 発表標題 Pretreatment Effects of Political Conversation on the Political Discussion in Mini-Publics
3. 学会等名 2021 International Political Science Association Congress
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 濱本裕美, 高原有希子, 河田ケルシ, 菊池達郎, 鈴木真介, 川島隆太, 杉浦元亮
2. 発表標題 他者の運動随伴性による親近感向上は、生物性非依存的に右下前頭皮質の反応を低下させる
3. 学会等名 第22回日本ヒト脳機能マッピング学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Shotaro Fujiwara, Ryo Ishibashi, Azumi Tanabe-Ishibashi, Ryuta Kawashima, Motoaki Sugiura
2. 発表標題 Tell me the truth: The effect of feedback reliability in praise words on neural activation in reward system.
3. 学会等名 Cognitive Neuroscience Society 2020 Virtual Meeting.
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中村航洋・浅野正彦・渡邊克巳・尾野嘉邦
2. 発表標題 逆相関法による政治家の顔ステレオタイプの可視化
3. 学会等名 日本認知心理学会第18回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中村航洋
2. 発表標題 データ駆動型研究のすゝめ 顔の認知心理学研究における実践と課題 , 画像を探って心がわかるか 心理学研究における統計的画像処理技術の応用
3. 学会等名 日本認知心理学会研究法研究部会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中村航洋・渡邊克巳
2. 発表標題 データ駆動処理による顔魅力印象の規定要因の検討 美しい顔とは女性的な顔なのか？
3. 学会等名 日本認知心理学会優秀発表賞受賞講演
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Endo, Y., Ono, Y., Yokoyama, T., & Nakamura, K.
2. 発表標題 Fooled by facial appearance: Candidate gender, facial dominance, and voter bias
3. 学会等名 The 78th Annual Conference of Midwest Political Science Association (MPSA2021)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中村航洋
2. 発表標題 顔学のトレンドを探る 心理学者が挑む学際科学としての顔学
3. 学会等名 第25回 日本顔学会大会シンポジウム
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中村航洋
2. 発表標題 顔から読み取れる印象と感情のデータ駆動処理モデル化
3. 学会等名 人工知能学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Tomoya Yokoyama
2. 発表標題 Pretreatment Effects of Political Conversation on the Deliberative Discussion: Evidence from a Mini-public in Japan
3. 学会等名 International Symposium "Designing Deliberative Democracy: Practice and Experiments" (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Tomoya Yokoyama & Yoshikuni Ono
2. 発表標題 The Effect of Irrelevant Visual Cues on Candidate Evaluation
3. 学会等名 Midwest Political Science Association 77th Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 河村和徳
2. 発表標題 長寿社会と投票権保障：国内導入を意識して
3. 学会等名 情報ネットワーク法学会第19回研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 河村和徳
2. 発表標題 全国の自治体における情報公開・オープンデータの現状と課題の解明
3. 学会等名 2019年度社会情報学会(SSI)学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Masahiko Asano & Yoshikuni Ono
2. 発表標題 Candidates' Facial Attractiveness and Electoral Success Evidence from Japan's Upper House Elections
3. 学会等名 Seventh Annual Toronto Political Behaviour Workshop
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Masahiko Asano & Yoshikuni Ono
2. 発表標題 Candidates' Facial Attractiveness and Electoral Success Evidence from Japan's Upper House Elections
3. 学会等名 UCLA TERASAKI CENTER FOR JAPANESE STUDIES
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Masahiko Asano & Yoshikuni Ono
2. 発表標題 "Candidates' Facial Attractiveness and Electoral Success --- Evidence from Japan's Upper House Elections "
3. 学会等名 実験社会科学カンファレンス
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Masahiko Asano
2. 発表標題 Getting Electoral Systems to Count: Does Candidate's Smile Matter in Japan?
3. 学会等名 高麗大学ワークショップ
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 浅野正彦
2. 発表標題 はじめての RStudio: エラーメッセージなんて怖くない
3. 学会等名 東北大学文系4研究科 人文・社会科学における知の創出セミナー（第21回クワトロセミナー）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 "Yumi Hamamoto, Yukiko Takahara, Kawata Kelssy, Tatsuo Kikuchi, Shinsuke Suzuki, Ryuta Kawashima, Motoaki Sugiura."
2. 発表標題 "The Effect of Action Contingency on Social Perception Prolonged after Interaction with Others."
3. 学会等名 Neuroscience 2019, McCormick Place Convention Center Chicago, Chicago, USA.
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 白鳥浩, 丹羽功, 黒木美来, 山本健太郎, 出水薫, 久保慶明, 芦立秀朗, 後房雄, 堤英敬, 森道哉, 河村和徳, 竹田香織, 伊藤裕顕, 善教将大, 岡田浩, 岡本哲和	4. 発行年 2022年
2. 出版社 法律文化社	5. 総ページ数 334
3. 書名 2021年衆院選 コロナ禍での模索と「野党共闘」の限界	

1. 著者名 中村航洋・渡邊克巳(河野 哲也・山口 真美・金沢 創・渡邊 克巳・田中 章浩・床呂 郁哉・高橋 康介(編))	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 464
3. 書名 顔身体学ハンドブック	

1. 著者名 横山智哉	4. 発行年 2020年
2. 出版社 一藝社	5. 総ページ数 268
3. 書名 政治的会話に含まれる異質な情報への接触機会：横断的接触が政治知識に与える効果 眞鍋貞樹・岡田陽介（編）民主政の赤字：議会・選挙制度の課題を探る	

1. 著者名 河村和徳・伊藤裕顕	4. 発行年 2019年
2. 出版社 河北新報出版センター	5. 総ページ数 285
3. 書名 被災地選挙の諸相II 選挙を通じて考える被災地復興の光と影	

1. 著者名 Masahiko Asano	4. 発行年 2020年
2. 出版社 The Rhetoric of Political Leadership: Logic and Emotion in Public Discourse	5. 総ページ数 250
3. 書名 Edward Elgar Pub	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	横山 智哉 (Yokoyama Tomoya) (20806153)	学習院大学・法学部・教授 (32606)	
研究分担者	福元 健太郎 (Fukumoto Kentaro) (50272414)	学習院大学・法学部・教授 (32606)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	矢内 勇生 (Yanai Yuki) (50580693)	高知工科大学・経済・マネジメント学群・准教授 (26402)	
研究分担者	河村 和徳 (Kawamura Kazunori) (60306868)	東北大学・情報科学研究科・准教授 (11301)	
研究分担者	杉浦 元亮 (Sugiura Motoaki) (60396546)	東北大学・加齢医学研究所・教授 (11301)	
研究分担者	尾野 嘉邦 (Ono Yoshikuni) (70598664)	早稲田大学・政治経済学術院・教授 (32689)	
研究分担者	齋藤 五大 (Saito Godai) (70823772)	東北大学・文学研究科・助教 (11301)	
研究分担者	中村 航洋 (Nakamura Koyo) (20817275)	早稲田大学・理工学術院総合研究所（理工学研究所）・その他（招聘研究員） (32689)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関